

じょうこうじ

# 掟光寺だより

令和6年  
5月号

## 行事案内

●5月6日(月)  
「花祭り」

13時30分から



## 仏教の平等について

花祭りはお釈迦さまの誕生日です。当山では旧暦の5月に行いますが正確には四月八日が誕生日です。

お釈迦さまの誕生には数々の伝説がありますが、有名なエピソードとして「天上天下唯我独尊」があります。これはお釈迦さまが誕生した直後に立ち上がって七歩歩

き、右手で天を、左手で大地を指したまま唱えた文言であり、「この世界に生きる人々は誰一人として尊いものである」という意味です。このエピソードが言うように仏教では誰しもが尊い存在であり、その尊さは誰しもが平等というものが大きな教えであり、特に日蓮宗で読まれる「法華経」では、その平等についてが大きなテーマのお経になっています。



お釈迦さまのいたインドではカースト制度と言って非常に身分の違いがありました。前の日よりでカースト制度について書いたことがありますが、例えばグリット(不可触民)に生まれた場合、交通事故にあっても誰も助けられなかつたり、サティイと呼ばれる習慣があり未亡人になった女性は火葬される主人とともに一緒に火

に飛び込まなければいけなかつたり、現在ではカースト制度もサティイも廃止されたが、それでも今なおその影響はインドに色濃く残っています。生まれによって性別によつてすべてが決まるとされていた時代で、それを否定されたのがお釈迦さまの仏教です。

人間はどういった家に生まれたかどんな身分かではなく、その人の行いや言動によつて、その人の価値が決まるものであると。

今の私たちにとつては納得できる内容ですね。



平等について法華経の有名なたとえ話で「三草二木」のたとえがあります。

この世界にはいろんな草や木が生い茂つており、その種類は多く、名前も姿も様々です。そのすべては雲によつて放たれた雨を受けます。その雨は平等にあまねく降り注ぎ、草木を潤しますが、草にも大、中、小、それぞれの異なりがあり(三草)、木にも大きな木、小さな木(二木)があります。それぞれがそれぞれの大きさにした

がつて潤い、生長し、花を咲かせ、実を結びます。これらの草や木は同じ一つの大地に生え、一つの雨の潤すところですが、同じ雨を受けても草木はそれぞれの大きさや性質によつて違いがある・・・

というたとえです。雨が平等に降つても伸びる木もあれば伸びない草もある。しかし、それは不平等ではないわけです。高い木は高いなりに低い木は低いなりに生きています。人間に当てはめても同じで、たとえ同じに成長させようと思つても同じような人間に成長することとは絶対にはないわけです。

平等の反対は「差別」です。一般的に平等とはこの差(差別)を無くすこと大小や高低がないことを平等と呼ぶのではないのでしょうか。この差別、多様性の上に普遍的な平等を見ないといけません。仏教では「法の下では一切は平等」です。法とは今あなたと側にある見えないこの世の理です。

差別の中に平等を見、平等の中に差別を見、という捉われのない見方が大事であり、みんな違つてみんな良いというのが仏教、法華経が理想する世界なのです。



